

# 榊原病院 Monthly

Vol.50  
2021.August

独立行政法人国立病院機構 榊原病院  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

## 院長

村田 昌彦 (むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。

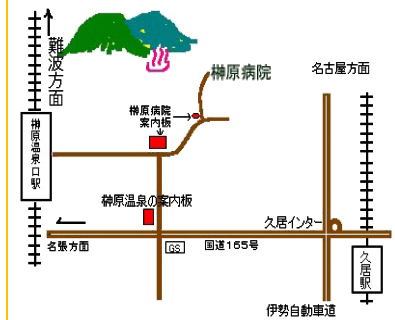


## 診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症  
専門外来
- ・ こころのリスク外来

## 病床数 176床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット



電車・バス / 近鉄久居駅下車 三交バス

(車庫前行き) 約30分

自動車 / 久居インターより約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

## 病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

### 「榊原病院に赴任して」 管理栄養室長 北條 恵美

はじめまして。前任の三重中央医療センターから当院までの車中から、桜の花が道沿いに咲き誇っているのを見ながら赴任してきました。ここでは春の色を目で感じ、また鳥のさえずりに耳を澄し、木々の匂いを吸うことで、殺伐とした世の中において、ふと「心の余裕」という言葉を思い出しました。

このコロナ禍において、様々な制約ができ、感染対策を行いつつ管理栄養士として何が出来るかを考えてまいります。栄養管理室職員は、日頃から衛生に心がけている点では、何も変わりがないのですが、暑くなるにしたがい食中毒などにさらに慎重な対応を行っています。

当院に来た頃は、コロナウイルス感染拡大の影響により、料理教室病棟での集団栄養指導等もお休みを余儀なくされており、栄養士は通常より患者様との触れ合いが少なくなりました。唯一、外来でお目にかかる方は限定となっていますが、栄養食事指導で直接話すことが出来るので、当院に来られる患者様が何に関心をお持ちになっているかが伺えます。話の内容としては、やはり食に関しての情報をおたくさんお持ちになられていると感じました。テレビで放送されている番組では、食事に関する番組の話題が多いです。緊急事態宣言中は外出を制限されており、家で過ごす時間が多くなることで、食への関心がさらに高まっているのではと思います。日本は「飽食」と言われ続け何年と経っていますが、時代はSDGs (エス・ディー・ジーズ) と変わりつつあります。SDGsとは、「持続可能な開発目標」の略称です。17の大きな目標をもち、その中で食に関する項目としては、「飢餓をゼロにする」という目標があります。日本は飽食で毎日おにぎり1個分を国民1人あたり廃棄処分としていると聞きます。食に関するSDGsは環境に配慮しつつ、適量な食事を摂っていくという意味では、「エコしてダイエット！」みたいな感じでしょうか？

食事は偏りなくバランスよくとるのも大切ですが、楽しむことももっと大切です。三密を避け、黙食では、たとえ大勢の人がいても孤独を感じてしまいますね。早くワクチン接種が全国民に広まり、(ある程度の感染対策は必要でしょうが) みんなでわいわいと食事を楽しむ元の世界に戻りたいと願うばかりです。そして、来年こそは花々や動物たちの生命力を近くで感じ取れたらいいですね。

もし、食に関する疑問・質問等がありましたら、お気軽に当院栄養士にご相談ください。

## トピックス

- 現在、建物の老朽化対策及び機能向上のため、病棟改修工事を行っています。病棟を入れ替えながらの改修となり、完了は令和3年9月を予定しています。
- 新型コロナウイルス対応として、入院患者様の外出、外泊、面会を制限させていただいております。情報は随時更新しておりますので、院内掲示やホームページで御確認願います。

行事・  
出来ごと



←第1期改修後の病棟をご覧いただけます。

〒514-1292 三重県津市榊原町777番地

<https://sakakibara.hosp.go.jp/>

代表電話 TEL 059-252-0211 FAX 059-252-0411

地域医療連携室 TEL 059-252-0660 FAX 059-252-0280

訪問看護ステーションゆうはあと TEL 059-252-0122 FAX 059-252-0126

## 地域医療連携室だより

### 〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

## ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開業しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和3年7月までに全症例は120例となりました。新規導入は5月2例、6月4例、7月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



## 認知症医療、アルコール・薬物依存医療、こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談ください。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に見見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内

デイケアは、新型コロナウイルス感染予防策を徹底しながら実施しています。毎朝の検温や、感染リスクの高い行動の回避など、利用者の皆さまのご協力に、本当に感謝しています。デイケアでは、人と人のゆるやかな交流があります。活動を通じて、利用者の皆さまの心と体の健康に役立てていただきたいと思います。月、火、水、金の午前9:30から午後3:30まで、榑原病院1階で活動しています。



(左)簡単調理メニュー① 野菜がいっぱいです。  
(右)簡単調理メニュー② 夏野菜カレーです。



※ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

## 栄養コラム



### ビタミンDは皮膚で作られる？～適度な日照も必要～

前回のコラムにて、国民の健康保持のために摂取することが望ましい栄養量の基準を定めたい「日本人の食事摂取基準」のなかで、「ビタミンDの目標量が骨折のリスクを上昇させない量」として策定されていることをご紹介しました。ここでもう一つ、ビタミンDについて重要なポイントは、「皮膚からも産生されている」ことです。そのため、今回の改定で「日常生活において可能な範囲での適度な日照を心掛けましょう」と明記されました。そこで、ビタミンDの食事摂取基準2015年の目標量5.5μgを産生するためにはどれくらい日光に浴びたらよいかというと、つくば市の正午の時点で、「7月では3.5分、12月では22.4分」と季節によって差があることが示されています。

## 病院の近景コーナー



←榑原病院から見える  
青山高原の風景です。

美しい田園風景です。 →

